

シリーズ100回 記念フォーラム

「被災地の記者たち」座談会

（一）被災地の記者たち」と題した座談会では、唐木大本震災アドバイザーの外歴（現報道新聞長）と発行を続いた石川市（現報道新聞長）の新潟県鶴石山田市（現報道新聞社長）の外歴（阪神大震災で本社が壊された神戸新聞神戸市の長沼義徳社長）が震災の報道や災害報道の課題を話し合った。進化部は本紙防災面を担当する平井勇司（阪神大震災アドバイザー）（以下、敬称略）

二〇一一年三月十一日 東日本大震災
日本では、うとうとての間、津波、地震が起
き、大津波は私たち故郷を襲った。私は今で
も心の中で絶えずして、なぜか自分自身
とくちに考へる。切ひそく生き生きのよし。
慣れ親しんだ環境が、突然、流れてしまった。
親戚や友人、親戚の名前は、なんひとつなく
しまった。亡くなったのは、家族ではないけれど、まことに、
命いかでなく、命もうなぎのように、また毎日、
迎むべきだった。家族だらう、子どもたちだらう、
娘に、夫婦に、里帰りした大人たちだらう、みんな、みなも、
誰かから大切にならなかった。
心を離れて生きづらさ、心を離れて生きづらさ、
くちも含んでいても、それが、うそを認め本當の
心を持たず。
どうぞ、運び返しながに、何を運び方でなく、なぜなら、
しながに、運びや、運び出しだし、始り日々
いのと、自分に「よい晴れ」せせらうして。
です。

「未来へ伝える私の3.11 I B C 岩手放送編」から

「被災地の記者たち」座談会

被災地の記者たちと廻った座谈会では、東日本大震災で津波に巻き込まれた石巻三日町の「新報社仙台市部の須賀宣毅報道部チャーップ健一郎」が、阪神大震災で本社を壊した神戸新聞（神戸市）の井上義之社長が、震災の教訓や災害報道の課題を話し合った。進化は本筋防災面を担当する平岩勇司（フリーアナリスト）。（以下、敬称略）

いとつまい子さんが被災者手記を朗読
女優のいとまし子さんが東日本大震災の津波で一族を失った宮崎県の四十代女性の手記「始まりの日」などを朗読した。

街が一瞬でつぶれました。被災地で起きたことを見て、考えて



座談会で、東日本大震災や阪神大震災について（左から）神戸新聞の長沼隆之さん、河北新報の須藤宣毅さん、石巻日日新聞の外処健一さん

非常用袋持ち出した人は何割? 防災 クイズで実感

イベントの締めくくりに市民らが名古屋大震災連携研究センター長の福和伸教授の解説で防災クイズに取り組み、知識を深めた。「東日本大震災の時、岩手県陸前高田市での避難所に非常用袋を家から持ち出しそう」「そ」「な」「え」のいずれかのかけで解説へ続いた人々が、授業の一環で東北地方に品詠合わせが贈られ、非常に用袋の問題の「6割」。福和教授はここに置いたかから

A wide-angle photograph showing a large audience of approximately 200 people seated in rows of red chairs in a large hall. The majority of the audience consists of young children wearing bright green safety vests over white shirts. In the foreground, several adults in white shirts are visible, some holding up small blue cards. The background shows tiered seating and wooden walls, suggesting a theater or auditorium setting.

主な聲明と答弁

Q 地震の規模を表すマグニチュード。数字が1増えると地震の大きさはどれくらい違う? **A. 32倍**

Q 津波が陸地をよじ登った高さを表す「陸上高」は、東日本大震災では

Q 太平洋戦争末期に起きた昭和東南

Q 海地震と三河地震。死者と行方不明者は計3500人に上ったが、被害が公表されなかったのはなぜ?

A. 軍事機密扱いとされたため

阪神大震災の時に、震度六七の揺れで倒壊した建物が、震度五の揺れではそのまま立ち直る。この現象を「震度減衰」といいます。この現象は、建築構造の強度によっても影響を受けます。たとえば、木造建築はコンクリート建築よりも震度減衰が大きい傾向があります。また、柱や梁などの構造部材の断面積が大きいほど、震度減衰が大きくなります。一方で、柱や梁の剛性（ねじれ剛性）が大きいほど、震度減衰が小さくなることがあります。これは、剛性が高い構造部材は、地震による力を効率的に分散させ、エネルギーを吸収する能力があるからです。

(c) 中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています